

交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2014年2月28日

No.15

「ベースアップは慎重に判断せざるを得ない」 「定期昇給の実施については現時点明言できない」 会社は不誠実な対応に終始！

～2014春闘 第3回交渉報告～

中央本部は本日10時より「第3回賃上げ交渉」を行い、要求の根拠について明らかにしました。
中央本部の今春闘に対する要求の根拠は以下の通りです。

- ①4月から消費税が8%に引き上げられ、公共料金の値上げや物価の上昇など、生活は非常に圧迫されているなかで、可処分所得も減少しており生活改善と物価上昇分を補うベアは当然の要求である。
- ②J R貨物は鉄道貨物輸送を通じて社会的使命を果たす義務があり、その義務を果たすためには働く組合員の生活向上が求められる。組合員に対する具体的な投資として、ベースアップ実施と職場環境改善は経営陣の責務である。
- ③台風や豪雪の中、組合員は安全と安定輸送の確保に向けて全力を挙げている。特に2月は首都圏を中心に大雪により大幅に乱れた中で全力を尽くしてきた。この苦勞に報いるためにもB単価の引上げは当然の要求である。
- ④鉄道貨物部門の収支改善のために期末手当において低額回答を行ない、また14年連続のベアゼロにより組合員の生活は限界である。11月以降収入計画を達成し、今年度決算は下期通達を上回る経常利益を確保することを考慮すれば支払い能力は十分にある。
- ⑤現在、新中期経営計画を策定中であるが、その内容は将来に亘って安心して働ける計画でなくてはならない。そのために私たちは努力を惜しまない。経営陣はそのことを受け止めた上で、満額回答で応えるべきである。

我々の要求根拠に対して会社は、現段階の考え方を以下のように示しました。

- ①大雪に際して、ご協力をいただいたことに大変感謝申し上げます。
- ②消費税増税や各種公共料金の値上げなど、おかれている現状については指摘の通りである。
- ③今年度の経常利益は計画を達成できる見込みだが、鉄道事業部門は赤字である。来年度は駆け込み需要の反動など不透明な部分が多い中で、鉄道事業部門の収支改善に向けて努力する必要がある。ベースアップは慎重に判断せざるを得ない。

(次頁に続く)

(前頁より)

会社は交渉の中で「社員の生活が楽ではないことは、この間の指摘により認識している」としながらも、「ベースアップは人件費の底上げにつながるものであり、収支トータルで判断する」とし、鉄道事業部門の収支改善のために来年度もこれまでと同様、人件費の抑制に主眼を置いていることが明らかとなりました。併せて、定期昇給の完全実施についても質しましたが「社内の議論が詰め切れておらず、この場では回答できない」と不誠実な対応に終始しました。

支払い能力は十分にある！

中央本部は、定期昇給についてこの場で回答できないことは言語道断である。経常利益は計画を達成する見込みだが、その黒字を作りだしたのは組合員であり、経営陣の努力する姿が見えない。過去に黒字が出た場合は社員に還元することは会社が示している。ベースアップを含めた、組合員のモチベーションを上げるための具体策を早急に示すこと。日々働いている組合員の生活を犠牲にして、会社が黒字になることは断固として認められない。鉄道事業部門の赤字が解消できないのはJR貨物が抱える構造上の問題を放置してきたからである。問題解決に向けて経営陣は責任を持って早急に対処し、JR貨物の将来展望を明確に示すことを通告し、第3回交渉を終えました。

組合員のみなさん。会社は鉄道事業部門の収支改善のために人件費を抑制する姿勢を変えていません。14春闘は今日から闘争ゾーンに入ります。ベア獲得・要求実現に向けて、職場からそれぞれの切実な思いを結集し、会社に対峙していこうではありませんか。中央本部は、その最先頭で奮闘していく事を申し上げ第3回交渉報告とします。

次回、第4回交渉は3月10日(月)です。